

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成22年度 厚生労働大臣賞 受賞	受賞者名	武田薬品工業株式会社
	所在地	大阪府大阪市
	受賞テーマ	武田薬品国内主要生産拠点におけるゼロエミッション活動
	1. 活動継続 あり	<p>リデュース・リユース・リサイクル活動として、廃棄物の分別徹底による有価物化（金属類、紙類、OA 機器類、廃油、その他）などにより、廃棄物排出や埋立て処分の抑制を継続して推進している。大阪工場と光工場を合わせた最終埋立処分量率、リサイクル率は 2009 年度の 0.2%、99.8%から大幅に改善し、2016 年度は 0.03%、99.97%と高いレベルを維持している。</p>
2. 活動の広がり あり	<p>大阪工場地区、光工場地区ともに、製造部門のみならず、事務・研究部門を含めた工場内全ての部門に活動を広げて推進している。</p>	
		
	事務用品リサイクルキャンペーン	遊休品の移動マーケット
3. 活動の進化 あり	<p>工場部門で不要となった事務用品、什器備品などの消耗品をイントラネットで必要とする部門に仲介・再利用を図る「ネットシェアリングシステム（The EARTH）」は、2016 年から対象範囲を全社に拡大した新システム「あげます・ください掲示板」へと移行し、リユース活動をサポートしている。</p>	
4. 今後の計画	<p>廃棄物の減量化、分別回収、再資源化に継続して取り組み、ゼロエミッション活動を推進する。</p>	
5. その他	<p>具体的な取り組み例として、ファイバードラムの金属部分離機具を購入し、金属部を切断分離することにより、段ボール部と金属部をそれぞれ有価物化とした。また、高発熱量の溶媒や廃油を代替燃料として有価物化したことなどが挙げられる。</p>	

【表彰概要】

同社では、国内の主要生産拠点である大阪工場、光工場においてゼロエミッション活動を推進、「2010年度に最終埋立処分量率 0.5%以下、再資源化率 90%以上、直接埋立処分量ゼロ」のすべてをクリアし、リサイクル率 99%以上という到達目標を 1 年前倒しで達成した。具体的な取組内容の例は以下の通り。

<リデュース>

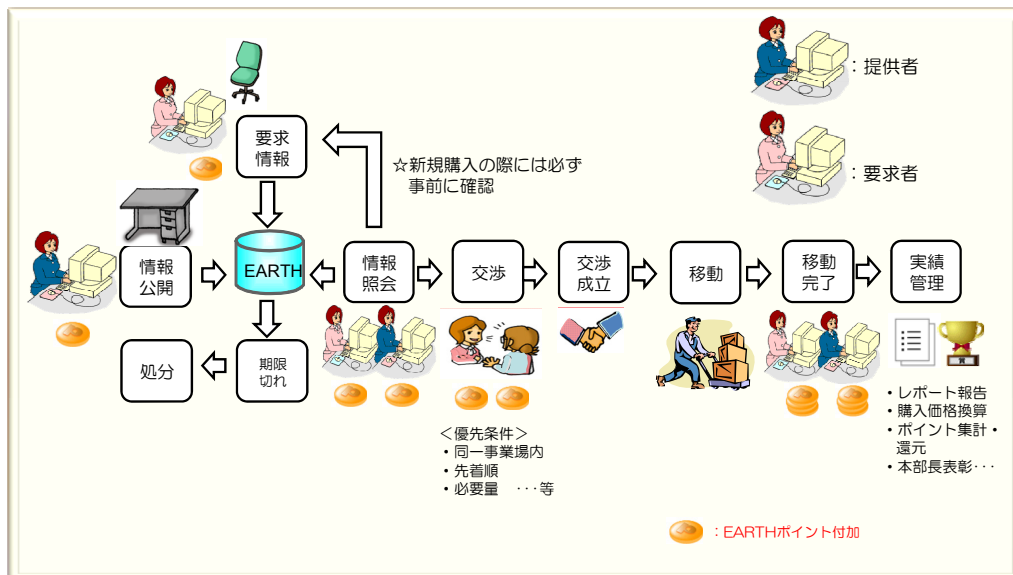
- ① 研究段階（原薬や製剤の製造法検討、製品設計）における廃油、廃液、固形廃棄物等の発生量削減。
- ② 製造段階における収率改善検討による原料使用量の低減。
- ③ 廃液の濃縮による発生削減。等

<リユース>

- ① 有機溶媒の濃縮回収や精製による工程内再使用（工程内で使用できない溶媒は外部溶剤会社で他の用途に使用）。
- ② 各部門で不要となった事務用品を持ち寄り、必要な部門で再利用するリサイクルキャンペーンの実施。
- ③ リユース活動を寄り拡大し強力に実施するため、不要となった機器類をイントラネットで必要とする部門に仲介・再利用を図る「ネットシェアリングシステム(EARTH)」の導入。等

<リサイクル>

- ① 難燃性廃油と自然性廃油の混合による燃料利用（廃液の焼却に使用）。
- ② 廃プラスチック、紙、作業着のマテリアルリサイクル及び固形燃料化。
- ③ 廃酸、廃アルカリは、セメント原料化可能な中間処理に変更。
- ④ 多岐にわたる無機汚泥は、品目毎に外部処理委託先を選定し、路盤材やセメント原料に利用。
- ⑤ 燃え殻は、外部処理委託先で路盤材やセメント原料としてリサイクル。
- ⑥ 廃 OA 機器は、分解して基板として再利用、素材別に回収してリサイクル。等



ネットシェアリングシステム (EARTH) のしくみ